

# 相澤先生をお送りする言葉

経済学部長 足立政男

相沢先生は一九六五年十月、当経済学部教授として御就任以来「経済原論Ⅰ」を御担当され、マルクス経済学の立場から、労働価値論を主軸とした体制批判の観点に立って資本主義経済の科学的究明、近代市民社会の経済的運動法則の解明と、経済学における基礎的理論の教育に専念して下さいました。

又、先生の教育研究の御生活は極めて真摯で厳しかったと同時に巾の広い視野に至って、後輩の指導や、学部教学のために御尽力を賜わったことは周知の通りであります。

先生は常に「学生諸君は常にマルクス経済学と近代経済学の両派の経済学を学習して、現実的問題意識をもつて、自らの判断で両派の経済学的知識を我がものとするよう心がけて欲しい。経済学はその端緒において極めて常識的な学問である。だがその内奥は深い。常識に甘んずることなく、険阻な学問研究の道を突進するよう努力されたい。」とおっしゃって熱心に教壇に立たれていたことは、私達後輩に残された御教訓として銘記しておくべき御言葉であると思います。

このように立命館大学で御在職されましたが、本学にこられますまでには、すでに長い研究生活があります。

先生は御尊父が医師であらせられたことから、先生も最初は医師を御志望になり、旧制第四高等学校（金沢）理科に入学されましたが、昭和初期の不況はマルクス主義を抬頭させ、その影響は地方にまで波及し、理科専攻

の先生を文科にうつらせるきっかけとなりました。

先生は昭和三年に結成された四高の社研に参加、其の後、河上肇博士を慕って上洛され、博士最後の弟子として、マルクス経済学を専攻されたのであります。

京大経済学部卒業後は教壇に立たれるかたわら唯物論研究会で随分御活躍されました。すなわち、当時の多くの論者が現状分析をおこなうなかで、先生だけが経済学史、経済原論面でのユニークな存在として「唯物論研究」で論陣をはられたことは有名であります。

昭和一六年以降、山口高商教授として学究生活に専念され、戦後はいちはやく民主主義科学者協会の結成に参加され、また山口県の農地改革や労働者教育の運動にたずさわり、その後、大阪市立大学に御転任されたのちも啓蒙運動の推進に積極的に努力され、「資本論」のさまざまな歪曲と戦いながら、理論と実践を真に統一させるという河上博士の伝統をうけつがれた貴重な経済原論学者が先生であったのです。

このように先生には実に長い学者生活、教授生活を通じて多くの後輩を育てられ、かつ、学界に偉大な貢献をされたことは有名であります。

このたび私たちの学部から停年御退任される先生をお送りするにあたり、長い間、本学のために御尽力を賜わり、御指導下さったことに心から感謝の意をこめて、ここにささやかな論集を捧げることに致しました。折にふれ、御閲覧を賜わり、想い出の一端にしていただければ誠に幸甚に存じます。

今、先生とお別れすることはまことに惜別の情に堪えません。終りに臨み、先生の今後の御健康をお祈り申し上げますと同時に今後共私達後輩のご指導を賜わりますようお願い申し上げます。